



環境システム学Ⅲ Environmental System III

九州大学グリーンアジア国際リーダー教育センター・助教
渡辺 貴史

< 概要 >

「環境システム学Ⅲ」は、環境問題について学生に多様な視点を提供し、自分の専門分野だけでなく他分野の理解を深めること、また集中的な議論を通じて新しい知見や論理的思考能力を涵養することを目的としている。この授業は、2017年6月から7月にかけて、10コマの講義を5回に分けて行われた。講義はすべて英語で行われ、以下の構成で進行した。まず、当日の講義のテーマを出題し、それについての概要を説明した。次いで、学生を複数のグループに分け、与えられたテーマについて議論をさせた。その後、各グループより代表者を選出して発表させ、質疑応答そして再度議論を行った。

第1回から第3回までは、「環境問題は科学的に解決可能か」という問いを巡って考察と議論を重ねた。その際、参加した学生は、議論を行う前に科学哲学に関する知見を理解する必要があった。専門の領域から離れた哲学的なテーマに当初学生たちは戸惑っていた様子であったが、議論を重ねるうちに課題が次第に明白となり理解も深まったようで、その後は真剣な議論が続けられた。



第4回から第6回では、「科学者が果たすべき倫理的な役割」について考察と議論を行った。科学者となることを将来の目標として研鑽を積んでいる学生たちには、この課題は身近な問題として感じられたようで、それぞれが独自の視点からこの問いに答えていた。また、その後

の総括的な議論においては、前回の科学哲学の問題に立ち返ってより根本的な問題を探るような議論が自発的に続いた。

< 総評 >

英語による授業であったために、日本人学生はかなり苦勞していたように見受けられた。そもそも英語での議論が困難であり、かつ専門外の分野についての知識不足もあって、授業についていくことさえ難しいようであったが、それでも一生懸命に議論をしようと努力する姿が見られた。外国人留学生たちは、何の違和感もなく参加していたように思われた。

この授業は、英語によるコミュニケーション能力を涵養することを目的の一つとしているが、しかしより本質的には、自ら考え、それをもとに他者と議論を重ねて、問題をより深く考え理解する能力を身につけることにあると思われる。今回の授業は、これら二つの目的がうまく噛み合って展開したように思われた。



環境システム学Ⅲ "Environment System III"

6月20日(火)
 6月23日(金)
 6月27日(火)
 6月30日(金)
 7月4日(火)

13:30-16:30